



民衆にとって先の大戦の意味は？

「日本人にとって先の大戦は何だったのか？」と問われる事がある。日本には財閥など金持ちもいれば貧しい農民や労働者もいる。財閥の利益になっても労働者には不利益になる事もある。

鉄拳で兵を従わせる

中国を植民地化すれば財閥は大儲けが出来る。その意を汲んで日本軍は中国奥深く進攻。しかし、中国は降伏せず首都を奥に移し抵抗。^{米英中オランダ} ABCD包囲網で対抗。実際、米国は対日石油禁輸。

そこでオランダ植民地のインドネシアの石油を獲得し、中国支配を狙って大東亜共栄圏を築こうとした。政府はいかにも国民の為であるかのように宣伝した。財閥や軍需産業はぼろ儲けしたが、国民

は徴兵され命も取られ生活も大変に。これに国民が異議を唱えれば治安維持法で処罰。

徴兵された兵士にしてみれば、こんな戦争に意味は見いだせない。だから徴兵した兵を暴力で従わせるのだ。元寇からの防衛、米国の独立戦争とは訳が違う。

恨みもなく殺し合う戦争

お昼に倉本聰の「安らぎの刻」(テレビ朝日)が放映中だ。召集を拒否し、山に籠もった鉄兵に山オジは「国に従え」と云う。

しかし、鉄兵は「戦争に行くのは嫌じゃ。恨みも何も無い見ず知らずの人間と殺し合う事は自分には出来ん」と応えた。

戦争は日本の民衆のものでは無かったのだ。皆さんはどう思われますか？



等々力溪谷 不動の滝

東京都世田谷区等々力一丁目

二〇一九年八月

長い梅雨があけたと思ったら、猛暑、猛暑の毎日。

東急大井町線で等々力駅を下車すると、すぐ近くに

等々力溪谷の案内。そこには、その案内板の所の気温と溪谷の気温がデジタル表示されている。溪谷の方が五、六度低い。

10m位低い溪谷に下ると、空はすっぱりと森で覆われ、涼しい風が吹く。次々と人々が下りてくる。

この滝で、白装束に身を固め滝に打たれ、無我の中で自分自身を見つめる修行、滝行をする人がいる。

環状八号道路の陸橋をくぐって行くと、崖の途中から水が噴き出している。崖の上に等々力不動尊があり、不動の滝と呼ばれている。

この涼しいポイントで、スマホを見ていた若い女性がいた。待ち人？と思ったが、この右の団子屋が開いたら立ち上がった。

先週はお休みしました。

